

情報システム学会誌の編集方針

神沼靖子

学会誌の役割とは

情報システム学会（以下、本学会）の学会誌に課せられた主たる役割は二つある。一つは、情報システム学に関わる研究成果を論文という形で研究・教育関係者や IS 技術者に公開し、関連学協会や関連業界に貢献することであり、もう一つは、学会員に有用な情報を記事という形で提供し、コミュニケーションを促進することである。このため、学会誌には論文誌と情報誌という二つの受け皿を置いている。

論文と記事と

論文テリトリの詳細は専門分野コード表 (<http://issj.nuis.jp/concept/03/index.html>) に示されている。その内容は、情報システムの基本概念、社会的環境、技術的環境、利用環境、教育環境、参照学問など広範にわたっている。論文のカテゴリには、論文、小論文、サーベイ論文、及び事例研究報告などがある。いずれの内容にも新奇性、進歩性、有用性、及び信頼性が求められる。論文投稿の詳細については、<http://issj.nuis.jp/thesis/index.html> に記されている。

記事のカテゴリには、解説、文献紹介、ニュース、討論、報告、基調講演の再掲などがあるが、これらの情報を通して会員にコミュニケーションの場を提供することを目指している。論文と記事とでは、考え方にも文章展開にも違いがある。たとえば、論文では論理の展開がわかりやすく、論拠には客観的な裏づけが必要とされるが、記事では解説や提言など主観的な表現

Yasuko Kaminuma

情報システム学会編集委員長

2008年5月4日受付

© 情報システム学会

が多い。

学会等の論文誌には一般にいくつかの種別があって、ジャーナルは最も高いレベルに位置づけられている。本学会の学会誌は、論文誌と情報誌とから構成されているが、論文誌はジャーナルの種別に属している。これまで採録されてきた論文に対して、かなり高いレベルにあると会員外からも評価されている。今後もこのレベルを維持していく方針である。

委員会の活動

これらの方針を全うするために編集委員会は査読に主力を注ぎ、良い論文誌にするための前向きな議論も繰り返している。論文査読を高質で適正に実施するために、質の高い査読者（編集委員以外の匿名協力者）を探し出すことも重要な役割である。電子出版誌でありながら、専任の編集要員は一人もいないという現状にあって、企画・編集・査読から、書式や体裁を整えて Web に掲載するまでの実に細々とした作業までが編集委員の手に委ねられている。

投稿原稿が条件付採録となつてから、さらに高質の論文に変容していくプロセスに関わつて、最後に掲載となつたときの達成感を委員も共有できる。この喜びが発刊への活力を支えているといえよう。

編集委員会は、皆様からの投稿をお待ちしています。投稿に関する質問も受け付けています。いつでもご相談ください。

著者略歴

1961 東京理科大学理学部数学科卒。日本鋼管、横浜国大、埼玉大学、帝京技術科学大学等を経て、2003 前橋工科大学教授を定年退職。博士（学術）。2005 年度より情報システム学会理事。2007 年度より編集委員長。